

群馬県川場村視察 新潟県新潟市視察

事務 所管 調査報告

産業建設観光常任委員会

平成27年5月14日(月)～15日(火)

川場村
道の駅 田園プラザ川場

視察目的

- ① 先進道の駅の現地調査
- ② 農業と観光の連携事例調査

報告



川場村は群馬県の北部に位置し武尊山の南麓に広がる自然豊かな農山村。関東でも数少ない農村の原風景の残る村のひとつ。村内には農地が600haある。この景観をまもることが重要な町

の財産づくりになる。道の駅の開発コンセプトとして、
① 地場産品のPR、直販による消費拡大
② 村民相互、村民と村外の人との交流、情報交換の場にする。



平成10年にグランドオープンし、現在社員数33名、パート83名(ピーク時には110名)平成25年度には来場者数120万人、年商12億の実績がある。川場村にとって長い歳月をかけて進めてきた活力ある村づくり事業を締めくくるものと位置づけ行政と住民が一丸となり取り組んでいる。



川場村で育った果実・野菜などを販売



川場村産のコシヒカリ「雪ほたか」

「道の駅」としての機能は十分以上に備わっているとされる。それに加えて「農業と観光の融合」という難しい問題に長い時間をかけて取り組み、全国有数の道の駅に成長している。6次産業へも積極的に取り組み、農家の所得向上、川場ブランドの確立、田園プラザ川場の集客増など効果も着実にあがっている。



人気のパン工房

何も無いということ最大の武器にして官民一体となり「超高齢化」、「遊休地対策」、「雇用の拡大」、「景観保全」、「交流人口の拡大」などの問題がクリアされている。

那須町の道の駅友愛の森で同じことを再現することはとても難しいと思うが、基本的な取り組みはいいお手本となると感じた。行政主導「辺倒」ではなく、町民の「やる気」を喚起し、一緒に取り組む姿勢をとることが大事ではないかと感じた。



極上おにぎりを販売する「かわばんち」